

支援を受けたチャイルドのストーリー

ADPの活動を通して自信をつけ、  
立派な大人に成長しました

プトリさんはとても臆病で、小学校5年生になるまで母親に付き添われないと泣いてしまって学校へ通えないような女の子でした。1996年のススカン地域開発プログラム(以下、ADP)開始当初からチャイルドとして登録されていましたが、幼い頃はADPの活動にあまり積極的に参加していませんでした。しかし、小学校6年生の時にADPのスピーチコンテストで最終選考対象者に選ばれたことが転機となり、自分に自信が持てるようになっていきました。

ADPの様々な活動の中でも、特にリーダーシップ研修と、子どもの権利と保護に関する研修が役に立ったと話すプトリさん。10代の時に、ADPの活動を通して大勢の人の前で話す訓練を積んだことが、今の仕事でも役立っていると言います。

小さいころから成績優秀だったプトリさんですが、両親にはプトリさんを含む5人の子どもたちを高校まで行かせるのが精いっぱいでした。そこで、プトリさんは自力で奨学金を受けながら学べる大学を探し、見事合格することができました。さらに、ADPの奨学金支援を受けて、1年間インドネシア大学でコンピューター技術を学び、卒業後は銀行員として働いています。

「何をするのも怖かった私をいつも励ましてくれた母と、成長の機会を与えてくれたADPに深く感謝しています。自分の努力で道を切り開くことを学び、私は変わることができました」と話すプトリさんの将来は、希望に満ちています。



臆病な女の子だったプトリさん(24歳)。  
現在は大学を卒業し、銀行で働いています

支援地域の代表者よりごあいさつ — ご支援に助けられた人々は数えきれません —

高い失業率や非衛生的な環境、HIV/エイズの脅威、そして十分な教育や医療サービスの欠如に悩まされていたススカン地域に、救いの手を差し伸べてくださった日本の皆さまに心より感謝申し上げます。小規模ビジネスを始め収入が向上した人々、改善された教育や医療サービスを受けられるようになった子どもたち、HIV/エイズの感染リスクについて知識を得、病気から守られた若者たちなど、ご支援によって助けられた地域の人々は数えきれません。

ご支援の成果は、今後も地域の人々によって受け継がれ広がっていきます。これまでの尊いご支援に深くお礼申し上げます。



ススカンADPが位置する  
チラチャス郡の代表者  
ロミー・シドゥハルタ氏



# 皆さまのご支援により、急激に変化する環境にあっても、子ども

## 背景

### 保健衛生・HIV/エイズ対策

ADP開始当時、母親たちは子どもの健康について十分な知識がなく、特に5歳以下の子どもの栄養不良が大きな課題でした。インドネシアでは、保健所が予防や啓発を含めた医療サービスを住民に提供していますが、保健スタッフの能力は低く、母親たちに十分な指導を行えていない上、行政機関によるトレーニングも限定的でした。またADPの期間中、ジャカルタの急速な経済成長と人口流入に伴い、若者たちの薬物使用・HIV/エイズの感染拡大が顕在化。親から十分なケアを受けていない貧困世帯の子どもが、特にこれらの危険にさらされていました。

### 経済開発

97年のアジア通貨危機や物価上昇、急速な経済成長など、この20年間でジャカルタの経済状況は急激に変化しました。支援地域ではもともと多くの世帯が慢性的な貧困に苦しんでおり、外部環境の変化や経済的なショック（子どもの教育費、家族の病気等）により、容易に極度の貧困に陥ってしまう状態でした。

### 教育

ADP開始当初、地域には貧困世帯の子どもが通える幼稚園がなく、失業・経済状況の悪化によって子どもの教育費を払えない世帯や、親が日々の生活で精一杯になり、十分なケアを受けられない子どもが増加していました。

支援開始前の地域の様子



### 保健衛生・HIV/エイズ対策



正しい知識が、  
子どもたちの成長を守るカギに



乳幼児の食事に関する研修の様子

## 成果

5歳以下の子どもの

## 栄養状態が改善

保健スタッフのべ  
282人に対し、乳幼  
児の食事指導や母  
親学級のトレーニ  
ングを継続的に実施。  
保健スタッフの能力

	2008年	2015年
低体重	23.1%	9.6%
急激な体重減少 (消耗症)	19.2%	12.4%
発育障害	18.9%	17.2%

が向上し、より良く活動できるようになったことで、母親たちの育児にも変化が現れました。より適切に子どもをケアできるようになり、子どもの健康状態が改善しました。

さらに、行政機関や学校と連携し、薬物の危険性やHIV感染予防の啓発活動を実施。現在、一部の中学校ではHIV/エイズの予防教育の授業を行っているほか、地域住民の中からも啓発活動を行うグループが誕生。ADP終了後も活動の継続・拡大が見込まれます。

若者を対象としたHIV/エイズ予防に関する啓発活動



# たちが守られ、学び続け、自信をもって歩むことができました



## 経済開発

慢性的な貧困に苦しむ人々が、  
逆境を耐え抜く力をつけました



貯蓄グループの活動により、  
地域の多くの人々がビジネス開始のための融資を受けられるようになりました



## 教育

貧困の中にあっても、子どもたちが  
学び続けられるようになりました



地域の幼稚園で学ぶ子どもたち

## 成果

**62%**の世帯が、家族の将来を見据えて貯蓄

貧困世帯に対し、小規模ビジネスを始めるためのトレーニングを継続的に実施し、のべ340人以上が参加。また、ビジネスに必要な融資を低利子で受けられるよう、住民による貯蓄グループの設立・運営を支援し、128人が参加しています。様々なスキル(スナックの製造・販売、ケータリング等)を身につけて複数の収入源を持つことで、収入の安定化につながりました。

日々の必要を満たすことで精一杯だった親は、収入が安定してはじめて、明日のことを考えられるようになります。現在では、62%の世帯が家族の将来のために貯蓄しています。これらの世帯がADP終了後も、貯蓄グループやワールド・ビジョン(以下、WV)インドネシアが設立したビジネス・プラットフォーム\*等の機会を利用しながら、ビジネスを継続・拡大していくことが期待されます。

\*小規模ビジネスを行う個人やグループが、必要な情報やトレーニング等にアクセスできることを目的として、WVインドネシアが設立した情報・研修提供の場

収入向上のためにスナックの製造を行う女性たち



## 成果

**8**つの保育所と **14**の幼稚園が設立され  
**5,257**人が卒業

貧困世帯の子どもが学校に通い続けられるよう、教育支援(学費補助、教材の支給等)を実施。また、住民グループによる幼稚園の設立・運営を支援し、教材備品の支給や、教員養成のトレーニング等も行いました。現在、このグループは政府の認可を受け、8つの保育所と14の幼稚園を運営しており、ADP終了後も活動を継続していきます。

さらに、補習授業を行う「学習グループ」や、子どもの権利、HIV/エイズの危険性等について学ぶ「子どもフォーラム」等の活動は、子どもたちが他者との関係構築の中で自尊心を回復し、ライフスキル\*を身につけ、劣悪な環境にあっても健やかに成長する手助けとなりました。

\*子どもたちが自分で考え、意思決定し、それを伝えることができるようになること

「子どもフォーラム」で子どもの権利や正しい価値観について学ぶ子どもたち





# 皆さまとともに歩んだ20年間 — たくさんの笑顔が生まれました



## World Vision

この子を救う。未来を救う。

### 支援開始当初の主な課題

- 経済状況の悪化による失業者・雇用機会の低下
- 劣悪な衛生環境。特に、貧困世帯の子どもの健康状態は深刻
- 若者の薬物使用と、注射器の使い回しによるHIV感染リスクの増加

スキャン  
地域開発プログラム

ジャカルタ

インドネシア共和国

#### 第1期 (1996-2000)

貧困世帯の子どものべ1,000以上に、教育支援(学費補助、制服や教材の支給等)、医療支援(医療費補助、健康診断や予防接種の実施等)を実施。



学用品(靴)の支給を受けて喜ぶ子どもたち (2000年頃)

#### 第2期 (2001-2005)

小規模ビジネスのトレーニング、幼稚園の運営支援、「学習グループ」の運営、学校を中心にした薬物使用・HIV/エイズについての啓発活動を実施。



幼稚園で給食を食べる子どもたち (2003年)

#### 第3期 (2006-2008)

第2期の活動を継続。当時学習グループに参加していた子どもたちからは、「以前はとてもシャイだったが、ADPの活動に参加して、人前でも堂々と話せるようになった」「両親が、自分のことを誇りに思ってくれるようになった」といった声がありました。



学校で学ぶ子どもたち (2007年)

#### 第4期 (2009-2012)

保健衛生と経済開発の分野で活動。HIV/エイズについての知識を伝える住民、子どもの養成や、保健スタッフのトレーニング、小規模ビジネスのトレーニング等を実施。



収入向上のために菓子作りを学ぶ地域の女性たち (2009年)

#### 支援卒業準備期 (2013-2015)

ADP終了を見すえ、住民グループの強化や枠組み作りを支援。幼稚園の運営、HIV/エイズの啓発活動、貯蓄グループは、それぞれ住民から成る組織が、行政やWVインドネシアと連携しつつ、ADP終了後も活動を継続。




ランプ制作で収入向上を目指す女性たち (2015年)

### 子どもたちを笑顔にできて幸せです



幼稚園の先生として子どもの教育に携わるリナさん(40歳)

リナさんは教育の仕事に就きたいと願っていましたが、高卒だったため教師になれず、幼稚園の事務職員として働いていました。しかし、ADPが実施した1年間の幼児教育に関する研修に参加し、その後大学で教育学の学位も取得しました。今は正規の幼稚園教諭として、幼い子どもたちを教えています。「ADPの活動に参加して、多くの友人と貴重な知識を得ることができ、世界が広がりました。子どもたちを笑顔にする仕事ができる幸せです」と話しています。

いっしょに幸せになろう。  
チャイルド・  
スポンサーシップ

#### お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話:03-5334-5351 FAX:03-5334-5359 e-mail:dservice@worldvision.or.jp ホームページ:www.worldvision.jp  
ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しています。ホームページにぜひお立ち寄りください。